

■米国：NY州のインディアンポイント2号恒久停止、稼働原子力発電所95基に

インディアンポイント2号機（PWR、99万8,000kW、ニューヨーク州）は2020年4月30日、恒久停止し、約45年に及ぶ運転に幕を下ろした。これにより米国内で稼働中の原子力発電所は95基となった。インディアンポイント原子力発電所を所有するエンタジー社は当初、2号機を2033年、3号機を2035年までとする運転延長を申請していたが、ニューヨーク市の北約39kmに位置することから、重大事故発生時の影響が非常に大きいとして、ニューヨーク州のクオモ知事が早期閉鎖を強く求めていた。その後エンタジーは2017年、卸電力価格低迷による経済性低下を主な理由として2号機を2020年4月まで、3号機を2021年4月までに閉鎖することに合意している。合意内容には原子力規制委員会（NRC）の認可上の運転期限を2号機が2024年、3号機が2025年とし、系統信頼性の観点から必要と判断される場合はそれらの運転期限までの延長できるオプションが含まれていた。このため、昨今の新型コロナ感染拡大を受け、一部の環境団体がカーボンフリーで需要の大きい夏場も安定して電力を供給できるインディアンポイント2号を早期閉鎖すべきでないとして、クオモ知事に2号の運転延長を要求するといった動きも見られた。